



Fukui Fine Arts Museum

2026.4 2027.3

福井県立美術館 展覧会スケジュール

※記載内容は変更する場合があります。最新の情報は当館HP、電話等でご確認ください

特別企画展 Special Exhibition

2026 (令和8) 年7月18日(土) — 8月30日(日)
休館日 / 7月27日(月)、8月3日(月)、10日(月)、24日(月)

小野忠弘展

1913年青森に生まれ42年に福井の住人となった小野忠弘は、2001年に没するまで約60年間にわたって超人的ともいえるヴァイタリティーを持った制作活動を繰り広げました。その独特の造形意識は、サンパウロやヴェネツィア・ビエンナーレなどの国際的な舞台において高い評価を受けました。80年代後半からは、50年代に制作した半立体作品と60年代中盤から80年代にかけて追求した平面的な絵画表現が融合したかのような強い存在感を持った作品を次々と発表しました。

小野は90年代にはいると「自らが収集してきた美意識の結集化とそれらの境界の探求」を試み、この意識を《BLUE》《Silver》といったシリーズで表現。これらの制作は創作活動の集大成として、2001年8月に作家が亡くなる直前まで続けられました。小野が没してから四半世紀となる2026年。この年に開催される本展では、1990年代の小野を代表するシリーズを網羅。併せて、初期から中期にかけての代表作を展示するとともに、未発表作品を初公開し、小野忠弘の表現の深層に迫ります。



小野忠弘《BLUE》1995年頃

特別企画展 Special Exhibition

2026 (令和8) 年9月19日(土) — 11月8日(日)
休館日 / 9月28日(月)、10月5日(月)、19日(月)、26日(月)

誕生70周年記念 ミッフィー展

オランダの絵本作家でグラフィックデザイナーのディック・ブルーナさんの手によって1955年に生まれた「ミッフィー (うさこちゃん)」が、2025年に誕生70年を迎えました。

ブルーナさんが手がけたミッフィーシリーズの絵本は全32作品。「もっと、もっと、ミッフィー」をテーマに本展では、初来日となる『うさこちゃんおとまりに行く』(1988年)、『うさこちゃんのだいすきなおばあちゃん』(1996年)の原画をはじめ、全32作品の原画やスケッチなど約200点が日本で初めて一堂に会します。ぬくもりあふれるストーリーや、愛らしい登場人物たち、リズムカルな言葉や、グラフィカルな色、線、構図など、もっと深く、もっと楽しく、もっと、もっとミッフィーを好きになれる展覧会です。



「うさこちゃんとたれみくん」印刷原稿 2006年
Illustrations Dick Bruna © copyright Mercis bv, 1953-2026 www.miffy.com

特別企画展 Special Exhibition

2027 (令和9) 年1月23日(土) — 3月22日(月・祝)
会期中無休

Hello Kitty展 -わたしが変わるとキティも変わる-

ハローキティは誕生から半世紀を迎え今や世界中で知られ、愛されています。世の中を見渡しても稀な存在と言えるでしょう。なぜそのようになり得たのでしょうか?そのヒントは、実はファンひとりひとりとの関係性にあったのです。

本展では「キティとわたし」の50年をテーマに、ハローキティだけが持つユニークさをひも解いていきます。さまざまなテーマの展示コーナーや史上最大量のグッズを展示するほか、個性あふれるアーティストとのコラボ作品、オリジナル映像コンテンツ、フォトスポットなど、見どころと体験にあふれた展覧会です。

※詳しくは展覧会公式サイトをご覧ください。



テーマ展 \ 常設展 Themed Exhibition / Permanent Collection

令和8年3月27日(金) — 5月10日(日)
休館日 / 3月30日(月)、4月6日(月)、13日(月)、20日(月)、27日(月)

風景画綺譚

同時開催

昭和100年記念 残映ランドスケープ

名所から理想の景色、故郷まで、古くから美術作品の主題として描かれ続けてきた風景。かつては写真の役割を担って遠い土地の光景を伝え、はたまた幽境に遊ぶ人々の思いを視覚化してきました。様々な時代、そして国を越えて描かれた山水、風景の様相を辿ります。あわせて昭和100年の節目を記念して、激動の時代に描かれた風景を福井にゆかりのある作家の絵画を中心にご覧いただけます。



狩野勝玉《四季山水園屏風》右隻 江戸時代後期 19世紀

令和8年5月13日(水) — 6月7日(日)
休館日 / 5月18日(月)、25日(月)、6月1日(月)

昭和100年・生誕160年記念 島田墨仙 -福井生まれの歴史人物画の巨匠-

橋本左内の肖像画でおなじみの島田墨仙は、明治から昭和にかけて活躍し、日本画部門初の帝国芸術院賞を受賞した歴史人物画の巨匠です。武家出身らしい謹厳実直で清廉な絵で認められる一方、作家自身が画中で遊ぶかのような詩情豊かな作品も描きました。本展は昭和期に脚光を浴びた日本画家・島田墨仙が昭和100年の節目に、生誕160年の記念年を迎えることを期に、同じく画家であったその父・雪谷、兄・雪湖とともに画業を振り返り、作品を時代背景とともに紹介します。



島田墨仙《廓然無聖(かくねんむしよう)》1931年 第12回帝展出品作

令和9年3月31日(水) — 4月25日(日)
休館日 / 4月5日(月)、12日(月)、19日(月)

ことば⇄え

物語や教訓があり、絵はより深い理解へと導いてくれます。この展覧会では、言葉とセットで見たい絵をご覧ください。



住吉派《源氏物語画帖》(第十七帖絵合) 江戸時代 17世紀

